

## 手引の使用にあたって

保健体育科において、各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していく「カリキュラム・マネジメント」の考え方に基づいた学習指導を充実させましょう。

教育課程においては、各学校が主体的に編成することが大切です。その際、「指導計画の作成と内容の取扱い」を踏まえて、3年間の見通しをもって年間指導計画を作成しましょう。作成の際は、「体育」及び「保健」の指導内容の関連を踏まえること、体育・健康に関する指導につながる健康安全、体育的行事等との関連について見通しをもつなど、保健体育科を中心とした「カリキュラム・マネジメント」の視点から計画を立てるなど教育課程の編成を工夫しましょう。

本手引の実践編は、理論編P 19に示した手順に沿って作成しており、その中で、**手順3**と**手順6**を取り上げて記載しております。各学校の実態に応じて参考にし、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを行いましょう。

手順1：内容の取扱い等を踏まえるとともに内容のまとまりにおける指導内容を確認し、年間指導計画に各単元を位置付ける。

手順2：授業担当者間で各単元の指導事項の共通化を図る。

実践編

手順3：内容のまとまりにおける指導事項をバランスよく配置（指導事項の重点化）し、単元の目標を設定する。

手順4：内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。

手順5：当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

実践編

手順6：単元の指導と評価の計画を作成する。

※「保健」および「体育理論」については、手順6のみで作成。

1 本手引では、下記の年間指導計画例により「その次の年次以降」の2年間を見通して、「その次の年次」の各領域における単元計画について作成しました。

科目	学年	単位数	時間数	1学期													2学期												3学期									
				4月			5月				6月			7月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
体育	入学年次	3	105	体づくり運動[6]			体育理論[3]			3領域選択Ⅱ[18] 陸上競技(走・投)・水泳(2泳法)・ダンス(創作ダンス)選択 3クラス3展開			球技・武道選択Ⅰ[16] 球技 ネット型(テニス)、ベースボール型(ソフトボール)、武道(柔道) 3クラス3展開			球技・武道選択Ⅱ[14] 球技 ゴール型(バスケットボール)、ネット型(バレーボール)、武道(柔道) 3クラス3展開			球技・武道選択Ⅲ[16] 球技 ゴール型(サッカー)、ネット型(バドミントン)、武道(剣道) 3クラス3展開			体づくり運動[6]			体育理論[3]													
	その次の年次	2	70	体づくり			3領域選択Ⅰ[11]			体育理論[3]			3領域選択Ⅱ[11]			3領域選択Ⅲ[19]			陸上競技[8] 長距離走			体育理論[3]			体づくり運動[3]													
	それ以降の年次	3	105	体づくり運動[6]			体育理論[3]			全領域選択(マイスポーツ)Ⅱ[18] 例)球技 ゴール型(ハンドボール)、水泳、武道(剣道)			全領域選択(マイスポーツ)Ⅲ[16] 希望上位3種目を配置 例)球技ベースボール型(ソフトボール)、ネット型(テニス)、ダンス(創作ダンス)			全領域選択(マイスポーツ)Ⅳ[16] 例)球技ゴール型(サッカー)、球技ゴール型(バスケットボール)、ネット型(バレーボール)			全領域選択Ⅴ[16]																			
保健	入学年次	1	35	現代社会と健康															安全な社会生活																			
	その次の年次	1	35	健康を考える方[4]					現代の感染症とその予防[6]					生活習慣病などの予防と回復[4]					喫煙、飲酒、薬物乱用と健康[7]					精神疾患の予防と回復[4]					安全な社会づくり[6]					応急手当[6]				
	その次の年次	1	35	生涯を通じる健康										健康を支える環境づくり																								
				生涯の各段階における健康[7]					労働と健康[4]					環境と健康[5]					食品と健康[5]					保健・医療制度及び地域の保健・医療機関[6]					様々な保健活動や社会対策[3]					健康に関する環境づくりと社会参加[6]				

2 「具体的な指導内容」として、下記の内容を記載しているので参考にしましょう。

- (1) 関連して高まる体力とその体力向上の手立て
- (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のために(技能向上のための手立て)
- (3) ICT活用
- (4) 障がいのある生徒への配慮
- (5) 体力や技能の程度、性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような学習活動・学習形態・練習の取り組み方、ルールやゲームの工夫、男女共習の工夫例など

3 各領域における単元計画を踏まえた学習内容・活動を示しました。授業づくりの参考にしましょう。また、QRコードを載せていますので、授業づくりや指導等に役立ててください。



#### 4 その他

- (1) 学習指導要領解説の指導計画の作成を参照して下記を踏まえた授業づくりを心がけましょう。(P数字は、学習指導要領解説の掲載ページ)
  - 中学校との関連 (P222) ○障がいのある生徒などへの指導 (P223)
  - 言語活動 (P225) ○情報機器の活用等 (P225)
  - 体力や技能の程度、性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような留意 (P226)
  - 体験活動 (P227) ○「体育」と「保健」の関連 (P228)
  - 学校における体育・健康に関する指導との関連 (P229)

※ 思考力、判断力、表現力等(思考・判断・表現の評価規準)は、基本的に例示のとおり示していますが、各学校の実態、授業の内容に応じた学習内容・評価基準を工夫・設定しましょう。